

### 全校児童で米の収穫を体験 三沢市立おおぞら小学校



5年生が中心となって米作りをしてきました。  
青年部員の皆さんもありがとうございます。



今回が最後の稲刈りとなった6年生



出来秋を実感

三沢市立おおぞら小学校は9月26日、全校児童約100人で稲刈りを行いました。JA青年部三沢地区の部員10人が参加し、稲刈り指導や稲わらを束ねるなど作業を手伝いました。

この日は、農事組合法人フラップあぐり北三沢の圃場（三沢市仏沼）で田植えをしてちょうど4カ月。法人代表の千葉準一さんは「夏の低温で心配だったが、一株一株ありがとうと感謝を込めて刈ってほしい」と伝え、児童は約1時間にわたり稲刈りしました。児童は「全校児童で稲刈りができてうれしい」や「稲刈りも楽しいが昆虫もたくさん出てきて、いろんな生き物を見られたのも楽しかった」と話しました。

青年部三沢地区は稲を束ねる作業と刈り取った稲を校舎敷地内で干す作業を行いました。収穫するまで防除作業や生育観察を行ってきた青年部員は「お米や餅を食べるときに、米作りでの体験を思い出して食べてほしい」と児童へ伝えました。

### 常勤役員による担い手農家訪問

JAは10月から、常勤役員による担い手農家の訪問を実施し、沖澤組合長、種市専務、馬場常務の3人がそれぞれ月に1~2回、TAC担当者とともに担い手農家に出向きます。10月12日に沖澤組合長がTAC担当職員と六戸町の担い手農家2戸を訪問し、労働力不足に対して取り組む無料職業紹介所事業を紹介したほか、今後の農業経営に関して意見を交わしました。

常勤役員の担い手農家訪問は、担い手のニーズをより正確に把握し、今後の農協運営に反映するのがねらいです。JAの中期3カ年経営計画の基本目標「農業者の所得増大、農業生産の拡大」における地域の担い手の育成と支援・強化での取り組みのひとつで、訪問や面談内容は四半期ごとに広報誌に掲載する予定です。

今後の農業経営について  
意見を交わす



種市専務は10月16日、塩釜地区を訪問

### 全量1等スタート 平成29年産米初検査

10月4日、六戸支店で平成29年産米うるち米初検査を行いました。農家22戸から持ち込まれた「まっしぐら」2,293袋（1袋30kg）が全量1等となりました。

初検査で沖澤組合長は「8月の低温と日照不足で農家から心配する声があったが、収穫時期を迎えてこれから入庫が本格化する。安全第一で事故とケガのないよう、検査員の皆様にはしっかりと検査してほしい」と激励しました。

青森県南部・下北地域の作況指数は95の「やや不良」で、8月の低温・日照不足で不稔（もみに実が入らない状態）の発生が見られました。当JAの契約数量は本支店合わせて74,359袋（1袋30kg）で、1日あたり約3,000袋を検査します。



初検査で沖澤組合長が検査を見守る

### 育てた大根、人参で料理 大曲小学校4年生

六戸町立大曲小学校で9月28日、4年生児童36人が学校で育てた野菜や地元産の野菜を使った農業ふれあい料理教室を開きました。JA女性部六戸支部員9人が参加して講師を務め、料理で交流を深めました。

同校は毎年、全校児童で10種類以上の野菜を育て、女性部員は畑作りや苗植え、栽培管理を手伝うほか、収穫祭として料理教室を開いています。

今回は、児童が育てた大根、人参を入れることから名付けた「六戸おでん」や、じゃがいものんにくバター炒め、長いもと玉ねぎのふわふわおやきなど計5品を作りました。材料は児童が育てた野菜と六戸町・三沢市産の長いも、にんにく、ごぼうなど、ほとんどが地元産でした。

児童はにんにくや玉ねぎのみじん切りに挑戦し「目に染みて一番大変」と話すも、女性部員から包丁の使い方を褒められ、部員らを感じさせたほか、一番人気のじゃがいものバター炒めを「にんにくの味がしっかりしている」と喜んでいました。



スープの出来を確認



野菜の切り方を習います

吉田町長も測定



JAは地域の健康づくりをサポートします

### 地域の健康づくりに活用を 血管年齢測定器を六戸町へ寄贈

JAは地域貢献活動の一つとして地域の健康づくりへの貢献をめざし、9月27日、六戸町に血管年齢測定器を寄贈しました。JA共済が推奨するレインボー体操のDVDを併せて送り、町で開く健康教室等に活用を呼び掛けました。

六戸町役場で行った寄贈式では、沖澤組合長が吉田豊六戸町長へ「元気でゆたかな町づくりと短命県の返上の一助となれば幸いです」と手渡しました。

三沢市には10月29日の三沢市健康フェアで、レインボー体操の紹介と血管年齢測定器を寄贈し、今後もJAは地域の健康づくりをサポートします。